

# 遠藤周作学会 会報

第11号

2016年10月29日

発行 遠藤周作学会

代表 川島秀一

二〇一六年度遠藤周作学会・全国大会

総会報告

事務局より

◇第十一回二〇一六年度遠藤周作学会・全国大会開催

第十一回二〇一六年度遠藤周作学会・全国大会は、二〇一六年九月十七日(土)に、関西学院大学にて開催された。

運営委員会が十一時半より行われた後、十三時より本学会副代表、川島秀一氏より開会の辞が述べられた。次に、総会が行われた後、以下プログラムのとおり研究発表が行われた。続いて、関西学院大学の細川正義氏による講演が行われた。大会進行役は大阪産業大学の北田雄一氏及び、ノートルダム清心女子大学の山根道公が担当した。

## プログラム

### 【研究発表】

① 遠藤周作『学生』論—白い手の意味するもの—

大阪大学大学院 アナンド・サンチット

司会 上智大学 片山 はるひ

② 遠藤周作の長篇小説における父性の瓦解

上智大学 福田 耕介

司会 兼子 盾夫

③ 『沈黙』における比喩

— 『権力と栄光』との比較において

恵泉女子園大学 柴崎 聰

司会 フェリス女学院大学 宮坂 覺

④ 『侍』論 —二つの物語の交錯をめぐって—

大阪産業大学 古浦 修子

司会 京都外国語大学 長濱 拓磨

⑤ 遠藤周作『深い河』論—啓子の人物像を中心に—

広島大学大学院 余 盼盼

【講演】

遠藤文芸と阪神間

司会 星美学園短期大学 武田 秀美

関西学院大学 細川 正義

【総会】

総会は、議長に古橋昌尚氏を選出して開かれた。任期満了に伴う役員の変更、及び二〇一五年度事業報告がなされた。内容は次のとおり。

◆ 役員の改選について、発足当時の顧問である佐藤泰正氏のご逝去及び、代表の笠井秋生氏より学会発足十年を機に代表交代をとの提案があり、新顧問に笠井秋生氏、新代表に川高秀一氏を選出、承認された。副代表及び事務局長を山根道公氏、新運営委員として、金承哲氏を選任した。さらに、査読担当を川島氏から金氏に、研究展望担当を池田氏から古浦氏に引き継ぐことが承認された。また、今後、代表の任期が長期化することを避けるため、会則に「(5)

④代表の任期は二年とする。再任は一期までとする。」の項を加えることを提案し、了承された。

◆ 第十回二〇一五年度遠藤周作学会・全国大会を町田市民文学館にて開催。会員三十四名、聴講者約二十名の参加があった。

◆ 機関誌『遠藤周作研究』第九号発行。

第九号は大会発表者二人に前代表笠井氏をはじめ二人の投稿論文及び、二本の書評を掲載。池田静香氏による研究展望及び、『沈黙』刊行五十周年記念として長濱拓磨氏による『沈黙』参考文献目録を収録。

◆ 長崎市遠藤周作文学館 遠藤周作没後二十年・『沈黙』刊行五十年記念事業（日時：八月十九日（金）、場所：遠藤周作文学館）に共催、本学会より二十四人が参加し、金承哲氏、長濱拓磨氏、太原正裕氏、兼子盾夫氏、福田耕介氏による『沈黙』をめぐるリレー講演、川崎友理子学芸員による展示資料紹介が行われた。続いて国際シンポジウム『沈黙』は世界でどう読まれたか」がパネリストにヴァン・C・ゲッセ

ル氏、ユスチナ・カシャ氏、李平春氏、古橋昌尚氏を迎え、山根道公司会により行われた。

◆ 会員数は、二〇一五年九月時点で一〇五名。二〇一五年度の新会員は七名。

◆ 太原正裕氏により監査報告がなされ、二〇一五年度の会計報告が承認された。

◆ 続いて、事務局より二〇一六年度事業計画について示された。内容は次のとおり。

◆ 第十一回二〇一六年度遠藤周作学会・全国大会を関西学院大学にて開催。

◆ 機関誌『遠藤周作研究』次号(第十号)は、長崎で行われた国際シンポジウム特集を組み、シンポジウム発題者のユスチナ・カシャ氏、ヴァン・C・ゲッセル氏の原稿を掲載予定。募集要項等はこれまで通り。

◆ 二〇一七年度の大会は、長野県の清泉女学院大学で、二〇一七年九月十六日(土)に開催予定。

◆ 遠藤周作事典の作成を計画中。

最後に清泉女学院大学の古橋昌尚氏の閉会の辞をもつて全国大会の日程を終了した。二十五名が懇親会会場の関西学院会館に移動し、発表者の挨拶が行われ、始終

和やかな交流が行われた。

■ 事務局より

▼第十一回遠藤周作学会・全国大会は、関西学院大学にて開催しました。参加者は会員三十四名に、聴講者が十一名加わり、大変盛会でした。この開催のためにご尽力くださいました、会場校の細川正義氏に改めて御礼申し上げます。

▼今回の大会の研究発表は五人による多様な視点からの研究発表がなされ、なかでもインドと中国からの留学生の発表もあり、国際性を感じられる発表の場となりました。充実した内容が機関誌にまとめられますことを楽しみにしています。

また、細川正義氏による講演会では、夙川、仁川の生活から、教会に導かれて過ごした遠藤氏の阪神間での体験が反映された作品とその意義を教示くださり、遠藤の文学的生涯における阪神間の重要性を熱く語っていただきました。

▼機関誌「遠藤周作研究」第十号の投稿論文を募集します。機関誌の最後にある投稿規定をご覧のうえ、会員の方々の意欲的な投稿が多く寄せられることをお待ちしております。

▼次回の研究発表の申込みは来年五月末日締切りです。三月に改めて募集のお知らせをいたします。

▼次回の大会は、古橋昌尚氏が所属される長野県の清泉女学院大学で行われます。遠藤周作と長野県のゆかりとしては、別荘のあった軽井沢はもちろん、追分から小諸、上田そして真田の村など、たびたび訪れていたようです。多くの学会員が集い、充実した研究発表がなされ、盛会となりますことを期待します。

▼八月十九日に、遠藤周作没後二十年・『沈黙』刊行五十年記念事業の一環として、本学会と長崎市遠藤周作文学館との共催事業を行いました。詳しくは、機関誌「遠藤周作研究」第十号に報告を掲載予定です。

▼全国大会終了後、遠藤周作事典の作成に向けて、運営委員を中心に編集委員会を立ち上げ、出版社との交渉を始めることになりましたので、ご報告いたします。

▼笠井前代表から学会員の皆様には、「学会が今後とも新代表のもと飛躍し成長を遂げることをお祈りしています。私は足が少し弱っています、元氣ですので、これから顧問として協力できることがあればできる限りやっています」との激励の言葉が届いております。

▼最後に学会員の方々に「協力をお願いします。機

関誌の「遠藤周作参考文献目録及び研究展望」は、今回ご尽力くださった池田氏から古浦氏に引き継がれますので、遠藤周作に関する、会員方々の論文はもちろん、入手できた参考文献についての情報を、古浦氏に直接お知らせください。また、これまで参考文献目録について、遺漏のある場合も、古浦氏にご連絡お願いします。

▼来年一月二十一日に、マーティン・スコセッシ監督の映画「沈黙」が公開されます。試写会に監督から招かれたヴァン・C・ゲッセル氏からは、原作に忠実で心の底から感動する作品だったと感想が寄せられています。原作者遠藤周作への関心が高まることを期待されます。

遠藤周作学会 事務局

〒700-8516 岡山市北区伊福町2・16・9

ノートルダム清心女子大学 山根道公研究室

TEL: 086 (252) 3129

E-mail: yamane@post.ndsu.ac.jp